

薄板ばねに込められた 匠の技

株式会社 特発三協製作所

特発三協製作所の創業は1955年。地元ばねメーカーの下請けとしてスタートした。薄板ばねを主要な製品とする同社は、当初からプレスだけでなく金型の製造も手がけてきた。マルチフォーミングの導入をはじめとした設備の充実、金型製作におけるノウハウの蓄積にも熱心に取り組む。まさに薄板精密加工のエキスパートである。

「こんなんでけへん？」

金型製作から最終工程の量産に至るまで、一貫して自社でカバーする。それが特発三協の強みである。実際に金型製作を外注したならば納期が約1か月かかるどころ、自社製作ならば2〜3週間で済んでしまう。寸法等の変更があった場合にも、すぐに金型の微調整に対応できる。

顧客のニーズに対して柔軟に「ズビデー」に対応。しかもマルチフォーミングの技術に特化しているため、複雑・高精度な加工が可能となる。

こうした同社の技術力を聞きつけたのか、「こんなんでけへん？」と困難な引き合いがよせられるようになってきた。そうした依頼に応えるうちに、取引先が広がった。大半が自動車関連部品だった引き合いが、今では自動車関連が6割、弱電が3割、ガス給湯器の部品が1割。さらには携帯電話部品のような極小の製品も請け負うようになった。携帯部品の金型ともなると、1000分の1ミリ単位



自動車のいたるところに組み込まれている薄板ばね。

での調整が必要となる。そのように難解な製造技術の獲得・蓄積が、同社のコア技術を構築している。

技術力が営業になる

特発三協は営業を置いていない。それでも、顧客のニーズに応え、信頼を得るうちに、自然と口コミで取引先が広がったと語る片谷社長。その言葉からは自社の技術力に対する自信のほどがうかがえる。

「こんなものがつくれる、というのを

知ってもらえれば、それが営業活動になると思つてます」

そのための広告塔としてホームページを設置。実際にネット経由で大手メーカーとの取り引きがはじまったこともある。グループウェアを活用することで品質管理体制も向上した。

そんな特発三協の次なる挑戦は環境対策。社員に環境への配慮を浸透させるためISO14000取得に向けた準備を進めている。

「町工場っていうと、いまだに油コテコテのキタナイところで仕事してるイメージがあるでしょ？ そんなことないんだけどね。だから、そんなんじゃないクリーンな工場を目指してます」

匠の技

近い将来、大量生産は海外に押されてゆくだらうという見解もある。けれど現場において職人の工夫や製品の精度を目的にすれば、いまだ日本の優位は揺るがないことを思い知らされる。

取材中、片谷社長が薄板ばねを差し出した。指先に乗せられるほど小さなその部品には、1ミリに満たないツメがあり、さらにそれは製品全体を考慮して微妙な角度がつけられている。こうした繊細な工夫も、やはり日本の製造業ならではの技だろう。

そうした匠の技を誇らしげに語る片谷社長「これからは展示会にもちよちよ顔を出したい」という。確固たる技術力をもつて、特発三協の挑戦はつづく。

編集部／近江匡宜



自社製作金型によるマルチフォーミング加工。



「こんなんでけへん？」に応えるために、片谷社長。

Company Profile

株式会社 特発三協製作所

所在地：兵庫県尼崎市下坂部 3-6-1
TEL:06-4960-4300 FAX:06-4960-4301

担当者：代表取締役社長 片谷勉
事業内容：精密プレス部品・マルチフォーミング加工・順送プレス金型・マルチフォーミング金型製作

エミダス会社・工場詳細情報：

<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?75706>
※「エミダス工場検索」のキーワード検索「特発」で検索できます。

(写真／引地信彦)